



利用者や職員への歓迎に笑顔でこたえる皇太子殿下。右は江草名誉理事長、左は末光理事長

皇太子殿下行啓の栄に浴す

理事長 末光 茂

7月24日午後、皇太子殿下が旭川荘にご行啓下さった。資料館2階で江草安彦名誉理事長から創立理念と約60年の歩みをご説明。児童院2階の渡り廊下に仮設したアートギャラリーをご覧のあと、すみれ病棟にご案内。敬老園1階の地域交流ホールではミュージックアカデミーの演奏をお楽しみいただいた。

この間「懐かしいですね」とのお言葉を何度かいただいた。まず資料館2階で「ひらた旭川荘」が「岡山県立総合社会福祉センター」だった36年前、現天皇后両陛下に同行された時のお写真を前に「屋外での作業と昼食をご一緒させていただきました」とのお言葉に添えてだった。

「ミュージックアカデミー」では「くらしき作陽大学」の学生ボランティアに言及したところで、「兎束俊之元副学長にヴィオラの指導をいただきました」。演奏後、曲目のひとつ『威風堂々』は愛子のチェロと一緒にヴィオラで練習しております」とお話しいただいた。アートギャラリーでは、陶芸作品の前で「ほんわかとした温かさが感じられます」「チョウチョ」の絵には「色使いがいいですね」。そして「旭川の土手の花々」には「細かい作業で、どれくらい時間がかかりましたか」などとお尋ねいただいた。

児童院のすみれ病棟では「どんなことを楽しみにしておりますか」とお尋ね下さった。プールや日中活動をご説明申し上げ、外見上反応がないように見える超重症児でも、人を識別している等の説明に、大きくうなずいて下さった。

接せられるすべての人にほほえみをもって正対し、相手の目の奥をしっかりと見つめながら耳をお傾けになった。優しいお人柄に身近に接することのできた光栄のひとつだった。

皇太子殿下、旭川荘をご視察 約600人が歓迎



7月24日、皇太子殿下が岡山県を訪問され、旭川荘をご視察になりました。

殿下は、江草安彦名誉理事長をはじめ利用者や家族、職員、地域の方々など約600人のお出迎えにこやかに応えられながら到着。末光茂理事長の先導により、約1時間半にわたり、旭川荘資料館、旭川児童院、旭川敬老園を視察されました。



資料館前にご到着。お車から颯爽と降りる皇太子殿下

はじめに立ち寄られた資料館では、岡山県の医療福祉の先人たちの活躍と旭川荘の創立の理念、サービス展開の現状と今後の方針、国際交流の実績などの説明に対し、医療福祉という概念について質問され、また、かつて「ひらた旭川荘」を視察されたことを懐かしまれるなど、深い関心を示されました。



江草名誉理事長の案内で資料館をご視察。医療福祉という概念について深い関心を示された

児童院では、アートギャラリーの作品をご覧になり、秋岡毅特別アドバイザー、清水やそし名誉館長の説明に熱心に聞き入れ、「色使いが素晴らしいですね」などの感想を述べられました。その後、重症心身障害児・者が入院生活を送るすみれ病棟で井上英雄院長の説明をお聞きになりながら、患者さんたちに優しいまなざしを向けられました。



「色使いが素晴らしい」。アートギャラリーの作品をご覧になり感心されたご様子



ミュージックアカデミーの演奏に拍手を送る皇太子殿下

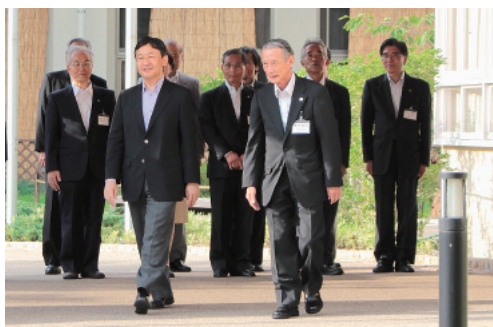
敬老園地域交流ホールでは、旭川荘ミュージックアカデミーの演奏をご覧になりました。この日のために練習を重ねた子どもたちの息の合ったアンサンブルに大きな拍手を送られ、演奏後には子どもたちや敬老園の入居者に優しく声をかけられました。



演奏を終えた子どもたちに「素晴らしい演奏でしたね」。気さくなお人柄に周囲の人たちにも笑顔が広がる



お見送りの人たちに手を振る皇太子殿下



旭川荘幹部職員にご挨拶の後、お車へ



皇太子殿下をご案内して

皇太子殿下は各視察先で熱心に質問をされ、職員や利用者にも気さくに声をかけられるなど進んで交流。温厚で飾らないお人柄に多くの人たちが魅了されました。

殿下のお言葉を一部ご紹介いたします(文中太字部分)。

アートギャラリー

秋岡毅特別アドバイザーがアートギャラリーの設置の意義について、①作品を作ること②生きる喜びを得ること③家族や指導者が喜びを得ること④一般の方々に活動を見ていただくこと、と説明。清水やそし名誉館長の案内で作品を鑑賞されました。

水彩画「蝶々」について

「色使いがすばらしいですね」

水彩画「旭川の風景」について

「細かく描写されていますね」

【秋岡氏が、岡山県内の主要河川ではかつて高瀬舟による水運が盛んであったことをお話しすると、殿下は興味深そうに微笑まれた】

切り絵「牛窓の三景」について

「白と黒の美しさをあらためて感じました。先人から伝わったものを学んでいかなければならないと感じました」

児童院すみれ病棟

井上英雄院長が児童院は全国で4番目に古い重症心身障害児者施設で、すみれ病棟は特に重い障害のある人が入所していることを紹介。竹内絵理子小児科医長が1人の利用者について病状、支援学校の訪問授業を受けていることなどを説明しました。

「授業はどんなことをするのですか？」

【竹内医長が、音楽を使ったり、見えないようにみえても絵本を見せて、読み聞かせをすることを説明】

「ごはんを食べる時はどんな反応をしますか？」

【竹内医長が、(この利用者は)チューブで栄養剤を補給しているが、負担になるときは体が緊張して硬くなる、脈が高くなる

などの生体反応で示してくることを説明】

◆廊下に展示していたプール遊びの写真をご覧になって。

「プールもするんですね。医学的にも効果があるんですか？」

【末光理事長が、浮力があるので運動の障害がある人も体が楽に動かせると水泳の効果について説明】

◆最後に詰所前で、スタッフ数人に声をかけられる。

「お疲れ様です。お仕事はいかがですか？」

【スタッフの1人が「楽しく仕事をさせていただいています」】

殿下はすみれ病棟の日常活動「もくもく工房」で足を止められました。比較的障害の軽い人たちが、それぞれ役割を決め、特別な道具を使うなど工夫して「コーヒー」を入れていることに興味を持たれたようで、利用者の女性に「上手ですね」と声をかけられました。彼女もとても嬉しそうで、「コーヒーをいっぱい作ろうとする。とても和やかな雰囲気でした。」(井上院長)

真剣にうなずきながら一言

も逃さずに話を聞いてくださる真摯な姿勢と、気さくに話しかけてくださる様子に、周りの緊張も解け、和やかな雰囲気時間が経ちました。緊張している私達に話しやすい雰囲気を作り出すとされる、そんな気配りを強く感じました。もう少しお話ししたい気持ちになりました。(竹内医長)

ミュージックアカデミー

板野美佐子常務理事がミュージックアカデミーの活動について紹介。旭川療育園、旭川学園の子どもたちがボランティアとともに「大きな古時計」「威風堂々」を演奏しました。

ヴィオラを演奏される殿下は、アンサンブルを楽しまれた様子。子どもたちに言葉をかけられました。

チエロ 高橋未岬君

「チエロはどうですか？」
高橋君「難しいけど楽しいです」
「ほかにどんな曲を弾いていますか？」

高橋君「披露した2曲と『木星』です」

「愛子もチエロを弾いていて、一緒に威風堂々を演奏しました」

フルート 黒瀬浩平君
「フルートの音もすばらしかったです」

黒瀬君「ありがとうございます」
「フルートは難しいでしょう」

黒瀬君「最初は音が出なかったので、頭部管だけで練習しました」

アルトサクソス 小谷哲也君
「演奏してどこが楽しいですか？」

小谷君「皆と一緒に合奏するところですね」

「心を合わせることは素晴らしいことですね」

